

有限会社シマコー
島田 孝二さん
Shimada Koji

Profile

高校卒業後、小松市内で親戚が営む建築板金工場に勤務。30歳で独立開業。1990(平成2)年に有限会社シマコーとして法人化。2021(令和3)年、69歳で経営のバトンを息子に託し、現在は取締役会長として後進の指導とサポートに当たる。



有限会社シマコー(小松市)

1982(昭和57)年創業。大手工務店からの仕事を中心に行う。組合の横のつながりを大切にし、同業者で協力し合って良い仕事をし、良い人材を育てている。「石川が誇る建築板金の技術を、若い世代につなげたい」と島田社長。【所在地】小松市丸内町鹿小屋3-2【資本金】900万円【代表】島田裕司



人の役に立ち、喜んでもらうこと。
職人の仕事の本質を見失わぬこと。
チャレンジなしには前進できない。



自分がやりたいことだから
がむしゃらになれた

シマコーの事務所棟は、小さいながらヨーロッパのカントリーハウスのような雰囲気があります。外壁は、金属パネルを菱形に組み合わせた「菱張り」。建築板金職人の美意識と技術がきらり光ります。

創業者である島田さんは、高校卒業後、18歳で板金の世界に飛び込みました。勤めた先は親戚が営む板金店です。最初から自分の会社を興そうという気持ちがあったわけではなく、「若い職人が次々と独立していく様子を見るうちに、『よし、自分も』という思いが湧いてきました」とのこと。ひとりだちするなら30代のうちにと決め、実際に30歳で独立開業を果たします。大工の父親の作業場に間借りして機械を入れ、業界の知り合いを訪ねては「使ってください」と頼み込む、地道な営

業活動が始まりました。

「お金の面では苦労しましたが、自分がやりたくてやっていることですから、つらいとは感じませんでした。私を応援するつもりで、新築する自宅の外壁を任せてくれた友人もおり、ありがたく思ったものです」

新しい取引先、新しい分野を開拓し会社を育っていく

創業から数年後には、大手板金会社の下請けで工事を手掛けるようになります。それまでは木造住宅の板金工事がメインでしたが、鉄骨造の工事にも携わるようになり、仕事の幅が広がりました。その後、人の縁で地元大手工務店との取引が始まります。仕事が増えれば職人を増やし、職人が増えればさらに仕事が舞い込むという好循環で、シマコーは法人化を経て順調に成長していきます。

順風満帆に見えますが、島田さんは「がむしゃらに働いて、うまくいったことは10のうち2つか3つだけ」と話します。一番苦しかったのは、2008(平成20)年、リーマン・ショックをきっかけに日本経済が大きく落ち込んだとき。板金の仕事がほとんどない中で職人の雇用を守るために、『屋根の上の作業が得意』という強みを活かして、鳥害対策の仕事を請け負った時期もあります。業績の回復を待ち、2021(令和3)年2月には息子の裕司さんに経営のバトンを渡しました。

**ものづくりが好きな人も
入社してから好きになる人も**

これまで何人の職人を育ててきた島田さん。もともとものづくりが好きで板金を始める人もいれば、入社してからものづくりの魅力に目覚める人もいるそうです。

現在のシマコーには、石川の建築板金業界のこれからを支

える20代の職人が2人います。ひとりは、「修業させてほしい」と頼まれて預かっている同業者の後継ぎ。もうひとりは、「この業界、この会社は安定しているから」という理由で異業種から転職してきた社員です。県内の工業高校で講演するなど、キャリア教育にも携わってきた島田さんは、若い世代に伝えたいことがあります。

「自分が駆け出しの職人だった頃を振り返ると、もうかる、もう知らないよりも、お客様が喜んでくれることが何より嬉しかったものです。利益を追求することは当然ですが、『人の役に立つ』という仕事の本質は見失わないでほしいですね」。

島田さんが趣味で描いている油絵。ジャンルは違っても精緻な仕事ぶりは板金と共通しています



今昔物語



1981(昭和56)年、生まれたばかりの裕司さんを作業服のまま抱っこする島田さん



社長交代前に20年間使っていた折曲機(写真左)を更新。長年の相棒に感謝しつつ、最新機(写真右)を迎えていました

独立開業を皮切りに、新しい分野を開拓したり、できる仕事の幅を広げたりと、私の半生はチャレンジの連続でした。人はチャレンジなしには成長も前進もできません。

チャレンジなしには前進できない

レジェンドの金言